

キリストによるキリストにある自由 ガラテヤ 5:1-6

1. キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。（ガラテヤ 5:1）
 - a. キリストが来るまでは私たちは奴隷であった。実際に奴隷としての肉体的な苦しみは経験していないかもしれないが、誰もが霊的・精神的な束縛や苦しみは経験したことがあるはず。
 - b. キリストは私たちの内なる人を罪の束縛から解放してくださいました。私たちは霊的に自由になった。しかし肉体的にはまだ解放されていない。
 - c. もし私たちが偽りの教えの侵入を許し間違った福音に導かれてしまったら、再び奴隷の身分に戻ってしまう。キリスト以外の人とくびきを負うと必ずみじめな結果になる。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。（マタイ 12:28-30）」

2. よく聞いてください。このパウロがあなたがたに言います。もし、あなたがたが割礼を受けるなら、キリストは、あなたがたにとって、何の益もないのです。割礼を受けるすべての人に、私は再びあかしします。その人は律法の全体を行なう義務があります。（ガラテヤ 5:2-3）
 - a. 私は個人的には、パウロが「このパウロが」という言い方をする時には注意しなければならないと思う。パウロは、その戒めが主からのものであるか彼個人からのものであるかを明確にしている。すなわち、イエス様は個人に対し特別な理由（義とされる以外に）のため割礼を受けるよう命じたのかもしれない。
 - b. パウロはここで「律法」に別の「戒め」を追加しているわけではない。人々は神の前に義とされる手段として割礼を行っていた。パウロは「キリスト・イエスにあっては、割礼を受ける受けなはいは大事なことでなく、愛によって働く信仰だけが大事なのです。（ガラテヤ 5:6）」と続けている。
 - c. もし律法やみことばを義認の手段として使うのであれば、好きなものだけを選ぶことはできないし、恵みものろいもすべて行なう義務がある。律法やみことばは決して義認を得るためではなく、救い主イエスに導かれるためのものである。

3. 律法によって義と認められようとしているあなたがたは、キリストから離れ、恵みから落ちてしまったのです。私たちは、信仰により、御霊によって、義をいただく望みを熱心に抱いているのです。（ガラテヤ 5:4-5）
 - a. 「良い行いによって天国に行こうとする人」というと、教会に行っていない人たちやイエス様のことを知らない人たちのことだと考えがちだが、パウロが取り上げているのは、教会の中でイエス様について正しい理解も持ちながら、なおかつ行いによる救いへと導かれてしまった人たちのことである。
 - b. 教会の中で偽りの教えがはびこる時、多くの場合はほんのわずかな小さいところから始まる。初めは害がないようでむしろ好意的にさえ見えるが、わずかなパン種が生地全体に作用するように、私たちが用心深く信仰に熱心でないと、キリストから離れ、恵みから落ちてしまう危険がある。
 - c. 私たちの義は努力によるものではない。もしそうであったら私たちが誇る対象となってしまう。私たちの義というのはこの世のものとは違い、私たちから出るものではなく、聖霊を待ち望むことによってのみ得られるもの。私たちはもはや罪とかかわることなく罪からかけ離れたものとなり、新しくつくられた者となる。